

建築学科の教育改善システム（PDCAサイクル）

【JABEE 基準 4】

1. 学科組織としての教育改善（PDCA サイクル）（別紙：建築学科の教育改善システム図参照）

建築学科では、以下のような会議とWGにより、組織的な教育改善を行っている。

(1) JABEE/FD 会議（PDCA & P：Plan）

JABEE/FD 会議には、日常的な学科の教育改善や各系の授業改善に関する計画（P）・実行（D）・点検（C）・改善（A）を行う「教育改善会議」と、臨時的な教育問題に関する計画・立案（P）を行う「教育改善WG」がある。これらの会議では、主に各系の授業科目について、シラバス等の授業計画を話し合い（P）、日常的に点検を行い（C）、改善案を話し合い（A）、実行している。各系に分けているのは、教育改善のスピードを重視しているためである。ただし、学科全体の教育改善に関わる問題については、学科会議に立案（P）する。現在の「教育改善会議」としては、下記が挙げられる。

- ① 構造・生産・環境系会議
- ② 設計・計画系会議
- ③ 初年次教育会議
- ④ 建築キャリア教育会議

一方、「教育改善WG」は、臨時的な教育問題について計画・立案を行い、学科会議に対して、教育改善に関する検討結果の報告や提案を行う。現在、進行中のWGとしては以下がある。

① JABEE 受審準備WG

(2) 学科会議（P：Plan & D：Do） 毎月1回程度

学科会議は、学科全体の教育改善に関する計画・立案（P）、実行（D）を行う会議である。また、学部およびJABEE/FD 会議からの計画・立案（P）に関する審議・実行（D）を行う会議ともなる。

(3) 自己点検評価会議（C：Check） 年1回程度（主に年度末）

この会議は、1年間の学科の教育改善およびそのシステムを自己点検し、評価する会議である。自己点検の方法は、JABEE の認定基準に照らして行い、各基準担当者により、点検項目のチェックをしてもらう。そして、問題点等を洗い出し、改善案をまとめる。

(4) 第三者評価会議（C：Check） 年1～2回程度

学科の1年間の教育および教育改善活動に関して、第三者の意見を収集する。学科の取り組みについて説明を行い、社会のニーズが反映されているか、教育の質、学生の質は保たれているか等の検討を行う。

(5) 教育プログラム評価会議（A：Action） 年2回程度（主に3月と10月～11月）

この会議は、自己点検評価会議の結果および第三者評価会議の意見を踏まえて、教育システムやカリキュラムの評価、見直しなどを審議・実行する会議である。学科会議は、日常的な業務を計画・実行するのに対して、この会議では、将来計画を踏まえた年次計画を策定する。

2. 教員個人としての教育改善（PDCA サイクル）

建築学科では、個々の教員についても、以下のようなPDCA サイクルにより授業改善を行っている。

- (1) シラバス・授業デザインの作成 (P : Plan)

シラバスは、ただ単に専門知識を教えるのではなく、学科が掲げる学習・教育到達目標との整合性を重視している。学科の学習・教育到達目標を踏まえ、授業全体の到達目標を検討し、シラバスに記載する。また、授業デザインは、シラバスに即した授業を遂行するための具体的な日程、授業内容を修得するための細かいルール（学生との約束）を示すものとなっている。ただし、成績評価に関してはシラバスの記載を遵守している。
- (2) 授業の創意工夫 (P: Plan, D : Do)

授業では、シラバスに掲げた到達目標に達するように、様々な創意工夫を行う。魅力ある授業を行うには、日々の改善努力が重要である。
- (3) 講義カード (C : Check, A: Action)

授業の日常的な取り組みは講義カードによってチェックし、学生の反応・要望に応じて授業改善を行う。
- (4) ティーチング・ポートフォリオの作成 (C : Check, A: Action)

建築学科では、担当授業のティーチング・ポートフォリオの作成を義務付けている。まず、Excel 表に、受講生の成績評価に係る中間試験、期末試験、レポート等の点数をすべて記入し、シラバス、授業デザイン、学生の講義カード、成績評価に係る中間試験、期末試験などの答案、レポートなどを原則電子ファイル (PDF 等) で保存するようにしている。このような書類の蓄積により、学生の学力の推移等を把握でき、年次的授業改善に役立つ。
- (5) 授業評価アンケート (C : Check)

学部が実施する授業評価アンケートにより、各セメスターの授業全体の取り組みについてチェックする。
- (6) リフレクションペーパー (A : Action)

授業評価アンケート結果を検討し、次年度の授業改善につなげて行く。

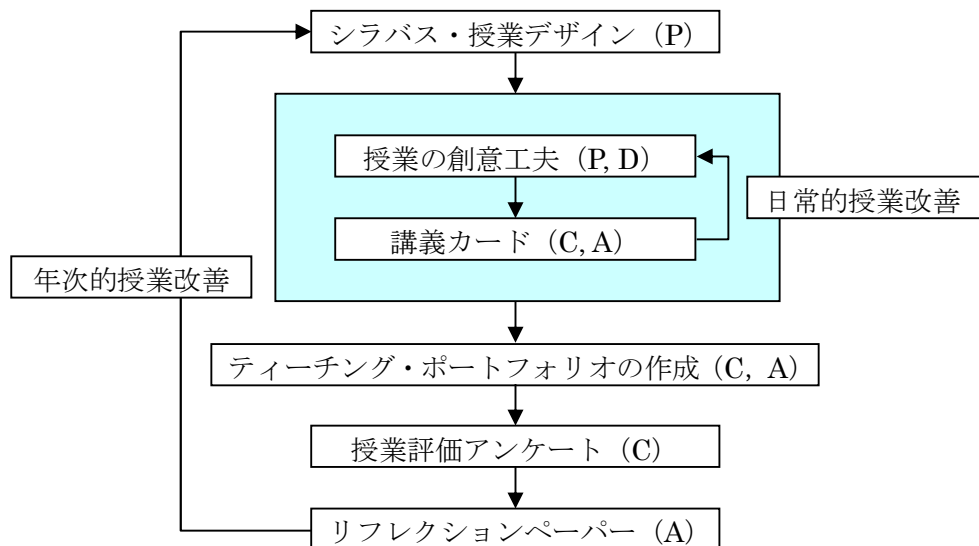


図1 教員個人の教育改善システム